

「安心できる居場所をめざして！学校における支援体制強化」事業の取組状況について 【スクールカウンセラーの増員】

近年の子どもたちは、学業成績・友人関係・家庭環境といった様々な要因から、不登校・いじめ・ヤングケアラー等の複雑かつ高度な問題を抱えている。そのような子どもたちに寄り添い、支援していくことが学校には求められている。

令和5年度より、児童及び生徒の臨床心理に関して、高度に専門的な経験を有するスクールカウンセラー（以下、「SC」という）を増員し、子どもたちの課題にいち早く気づき、対応する体制を構築し、子どもたちが安心して過ごせる学校づくりをめざしている。

1 事業概要

東京都が各校週1～2回配置しているSCに加え、令和5年度より板橋区独自で区立中学校に週1～2回追加配置を行うことで、子どものSOSを素早く察知し、いじめや不登校等の未然防止、改善及び解決並びに学校内の教育相談体制等の心理的な支援の充実を図る。

	配置状況（区立中学校のみ）	勤務日数（一人あたり）
東京都公立学校SC	25名	年間38日
板橋区立学校SC	23名	年間45日

2 活動状況について

	相談件数（うち生徒の相談件数）	アウトリーチ
令和4年度（4月から8月まで）	3,130件（1,056件）	
令和5年度（4月から8月まで）	4,507件（1,618件）	790件

※アウトリーチは、令和5年度開始であり、相談件数には含まれない。

（1）相談件数（中学校における区カウンセラー及び都カウンセラーの活動実績）

SCの増員により、相談件数が対前年度比約1.5倍となっており、カウンセリング等の相談による早期対応及び早期解決に向けた活動を充実させることができた。

また、生徒からの相談件数においても、前年度比約1.5倍となっており、SCの増員により校内に配置された時間が増えたことから、相談できるタイミングが増え、生徒が相談しやすい環境となりつつある。

なお、依然として、教員や保護者からの相談件数が生徒の相談件数よりも多い傾向は変わっていない。今後は、子どものSOSを素早く察知するため、アウトリーチ型支援の充実を図っていく。

(2) アウトリーチ件数等（中学校における区カウンセラー及び都カウンセラーの活動実績）

【アウトリーチ型のカウンセリングとは・・・】

授業時間、休み時間、清掃活動、部活動等、児童・生徒が集まる場面での自然な関わりの中で積極的に働き掛けて観察し、情報を獲得し、支援に繋げること。

アウトリーチの好事例

- ・別室や相談室登校時、話を聴いた。
- ・話題になる生徒について、面談のない時間に教室巡回をした。
- ・教室に入れないでいた生徒に話しかけ、担任と相談室で対応した。
- ・授業中に、行動観察を行い、注意がそれやすい生徒へは、注目を促す声かけをした。
- ・継続して面談を行っている生徒の部活動へ観察に行った。
- ・生徒の雑談に入り、普段の様子を知るきっかけとした。
- ・教室の外でうずくまっている生徒に声をかけて、対応をした。
- ・別室に登校する生徒に寄り添い、何気ない会話から生徒の思いを聞くようにした。
- ・夏休みにカウンセリングを行い、希死念慮のある生徒やその保護者に対し連絡をとるなど、働きかけることができた。

区ＳＣの配置により、面談を数多く実施することができるようになったとともに、ＳＣから生徒への働きかけ（授業観察や部活動観察、別室での対応等）を充実させることができるようになった。

課題を抱える生徒が、自律し、自身の力で課題を解決していこうとする生き方を見出すためには、信頼関係を築き、話してみようと思える大人や友達がいることが重要であり、その役割を担うＳＣの存在は、大変意義がある。

今後も、アウトリーチの重要性をＳＣが認識し、積極的に、生徒の心情に寄り添った支援を実施することができるよう、学校に広く働きかけていく。

3 今後の展開

●スクールカウンセラー連絡会の充実（令和５年度は２回）

板橋区に配置されている全ＳＣが集まる機会を設け、板橋区教育委員会事務局からの情報伝達や、ＳＣ間の情報交換等を行っている。学びのエリアを中心としたＳＣのつながりをもつことで、小中の連携や、対応方法の相談等、よりよい支援へつなげるための情報交換ができるようになっている。

今後は、実施後の効果等を見極め、さらなる充実を図っていく。

●ＳＣの資質向上のため、研修の充実

多様な背景や困り感をもつ児童生徒、保護者に対応するためには、ＳＣの資質向上が喫緊の課題である。学識経験者を招き、ＳＣの役割やアウトリーチ型のカウンセリング等、ＳＣの資質向上を図るための研修を充実させていく。

●アウトリーチの好事例の周知等、情報の発信

アウトリーチの好事例等の情報を発信することで、区がめざすアウトリーチ型カウンセリング等の共通認識を図る。